

学力向上に効果のある取組事例

別府市立南立石小学校

⑦生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

取組の具体①

○生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

＜自己決定＞

- ・子どもたちが、提示された問題から「あれ？おかしいぞ」「いいのかな」と気づき、解決したいという意欲につながる課題を設定することで、一人ひとりが自分の考えを持つことができるようにする。

＜自己存在感＞

- ・まちがいや失敗、「わからない」ことを大事にする集団づくりをしているので、授業の中でも、つまづいている児童、困っている児童が、その事をつぶやき、周りがそれをつないでいこうとする。グループの中では、それぞれの考えが尊重されながら協働的に解決に向かっている。



取組の具体②

○生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

＜自己存在感・共感的人間関係＞

- ・全員が納得できる考え方（その時間に考えさせたい内容）を見つけるために、一人がみんなに図で表しながら考えを示し、ほかの子どもたちは、自分の考えやグループでの話と比べながら聴き、さらに新しい考え方や問題のよりよい解決方法を意見交流しながら見つけていく。多様な考えを経て、問題の正しい解決方法を導き出し、その時間に学ぶべき内容を身につける。



学習指導案

年 組	教科	算数	指導者	姫野 喜代美
単元名・題材名	分数のわり算		時	10/全11時間
題 目	あまりのあるわり算			
ねらい	分数のわり算の包含除の場面で、商が帯分数になった場合、分数部分があまりを表しているのではないことを、絵や図などを書いたり実際に操作したりすることを通して、理解することができる。			
評価	【評価規準】：分数のわり算で商が帯分数になった場合、分数部分があまりを表しているのではないことを、図などを用いて理解することができる。			
	【観点】 思考・判断・表現		【評価方法】 観察・発言・ノート	
「努力を要する」状況の児童生徒に対する手立ての工夫	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習内容を教室側面に掲示し、ヒントとなるようにする。 問題の意味が捉えられているか机間指導等を通して、基礎的内容の把握を確認する。 イメージが浮かびにくい際は、実際に問題場面を操作させられるように、道具の準備を行う。 			
活動	<p>1 めあてをとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題文を提示し、本時に考える内容について明らかにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> $2\frac{1}{5}L$の牛乳がある。$\frac{2}{5}L$入りのビンに分けていくと、ビンは何本できて何Lあまるか？ </div> <ul style="list-style-type: none"> 分数、わり算、あまり などのキーワードを板書する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【めあて】・分数のわり算のあまりについて考えよう </div> <ul style="list-style-type: none"> 求める式を全体で確認した後、各自計算し答えまで出させる。 分数のわり算は逆数をかけることを想起させながら、$5\frac{1}{2}$になることを確認する。 答えが5本と$1/2L$となり、おかしさを感じ始めたら課題を位置づける。 <p>2 課題をつかみ、自分の考えを持つ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【課 題】$1/2L$あまる でいいか？ </div> <ul style="list-style-type: none"> ノートに自分の考えを書かせる。【自己決定】 計算では、$5\frac{1}{2}$となったが、あまりを$1/2L$とみていいかを、絵や図などを通して考えていくようにさせる。 机間指導の中で、つまずいたり、困ったりしている子があれば、全体で考える場を持つようにする。基礎的な内容の定着が難しい子には、その場でアドバイスし、問題を考えていく意欲につなげていくようにする。 <p>3 ペア・グループで話し合い、全体の場でも出し合う。【自己存在感】【共感的な人間関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> あまりが、$1/2L$では、わる数$2/5L$より大きくなりおかしいということを、図や整数にして考えることで、明らかにしていく。 Lマス図や線分図など、考えの途中でも全体で考えられる内容を板書し、全体に提示し交流できるようにする。さらに、ペア・グループで考える時間を作り、友だちの考えの意味を捉えていけるようにする。【自己存在感】【共感的な人間関係】 話し合いの中で気づいたことを全体に出させ、本当のあまり$1/5L$を明らかにしていく。 計算では、$5\frac{1}{2}$となったのに、絵や図からは、あまりは、$1/5L$となることを共有し、$1/2$とは何かということに目を向けていけるようにする。 $1/2$が何を表すか、グループで考えさせる。【自己存在感】【共感的な人間関係】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> $1/2$は、何か？ </div> <ul style="list-style-type: none"> 考えに行き詰まったら、実際に操作する中で考えられるようにする。(道具の準備) 問題になっていた$1/2$が表すものが、ビンの半分であることを板書に位置づける。 <p>4 まとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> あまりは、$1/5L$で、びん$2/5L$の半分の$1/2$を表す。帯分数の分数部分はあまりを表すのではなく、同じ単位である。 </div> <p>5 振り返りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数日記で、わかったこと、友だちの考えで参考になったことなどを書くようにさせる。 			

